



成 2 9 年 8 月 3 0 日

新たな大学院畜産学研究科の設置認可について

帯広畜産大学は、我が国唯一の国立農学系単科大学という強み・特色を活かし、大学院における獣医学・農学・畜産学融合の教育研究と国際通用力を持つ人材育成を強化するため、既存の大学院組織を改編して新たな畜産学研究科を平成30年4月に開設する計画を文部科学省に申請し、このたび同省より「設置認可」の連絡を受けました。今後、学生募集活動の開始、大学院関連規程の改正等開設に向けた諸準備を推進します。なお、学生募集要項の配布については本年9月中旬頃を予定しております。

【大学院畜産学研究科再編（畜産科学専攻・獣医学専攻の設置）の骨子】

- 博士後期課程について、現行では農学分野は岩手大学大学院連合農学研究科、獣医学分野は岐阜大学大学院連合獣医学研究科、畜産衛生学分野は本学大学院畜産学研究科の3組織に分かれて人材養成を進めてきましたが、新たに本学独自の農学分野及び獣医学分野の博士後期課程を新設しました。これにより、学部から博士後期課程までの獣医学・農学・畜産学融合の一貫教育を可能とするとともに、“食料の生産性向上” “動物及びヒトの健康向上” “食の安全確保” を担う専門家を本学独自で養成する体制を構築しました。
- 修士課程及び博士前期課程について、現行では畜産生命科学、食品科学、資源環境農学、畜産衛生学の4専攻で人材養成を進めてきましたが、これらを1専攻7コースに包括しました。7コースのうち6コースは学部の専門教育プログラムである6ユニットに対応したコースとして学部と大学院の接続性の向上により専門性の高い教育を担保するとともに、獣医師養成以外の学士課程を卒業しながらも獣医学分野の知識・技術の修得に意欲のある学生を対象に「動物医科学コース」を新設しました。本コースの設置及びコース横断型の教育科目の配置等により、獣医学・農学・畜産学融合教育を一層充実しました。
- 食の安全確保に関する専門家の養成について、現行では畜産衛生学専攻（博士前期・後期課程）で実践してきましたが、新たに畜産科学専攻に「畜産衛生学位プログラム」を設置して全ての学生が履修可能なプログラムとして発展させました。これにより、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準（HACCP システム等）の取得・維持に対応できる人材養成機能を強化しました。
- 畜産科学専攻及び獣医学専攻において養成する人材像、期待される進路等は以下のとおりです。また、具体的な内容は別添概念図をご参照願います。

1. 畜産科学専攻

①博士前期課程（2年制、入学定員48名）

農場から食卓までの「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を養成します。家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学の6コースの修了者には「修士（農学）」の学位を授与し、博士後期課程に進学することに加えて各種試験研究機関、飼料・食料品・農薬・医薬品関連企業、農業団体、農業コンサルティング企業等で活躍することが期待されます。また、動物医科学コースの修了者には「修士（動物医科学）」を授与し、博士後期課程又は獣医学専攻（博士課程）に進学することに加えて医療関連企業、製薬会社、動物臨床検査機関等で活躍することが期待されます。

②博士後期課程（3年制、入学定員10名）

食と農のグローバル化を背景にした専門的知識及び創造性と優れた研究開発能力・教育能力を備えた豊かな人間力を持つ教育者・研究者を養成します。修了者には「博士（農学）」の学位を授与し、大学・公的試験研究機関の研究者、食品関連企業の研究職、農業関連団体の技術者等として活躍することが期待されます。

③畜産衛生学位プログラム（博士前期・後期課程）

博士前期課程における本プログラムでは、食品安全マネジメントシステムに関する知識・技術を修得し、企業等と連携してその知識・技術を現場へ応用できる人材を養成します。修了者には「修士（畜産衛生学）」の学位を授与し、博士後期課程への進学に加えて食品関連企業、農業団体、公的機関等において HACCP システム等の食の安全対策を行使できる職員等として活躍することが期待されます。また、博士後期課程においては畜産衛生学の国際的な研究者・高度専門家を養成します。修了者には「博士（畜産衛生学）」の学位を授与し、食の安全衛生等に関する大学の研究者、企業等における HACCP システム内部監査員、衛生管理リスク分析者等の専門家として活躍することが期待されます。

2. 獣医学専攻（4年制博士課程、入学定員5名）

獣医科学と農畜産学を融合した柔軟な発想で、農畜産業のグローバル化に伴う多様なニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮する能力を身につけ、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献できる指導的な教育者・研究者を養成します。修了者には「博士（獣医学）」の学位を授与し、大学・公的試験研究機関の研究者、製薬関連企業の研究職、農業関連団体獣医師等として活躍することが期待されます。

【ウェブサイト】

<http://www.obihiro.ac.jp/topic/2017/kaiso.html>

【お問い合わせ先】

帯広畜産大学理事 柳 川 久
(事務担当)

基金・広報戦略室 早 坂 美 穂 TEL:0155-49-5995

設置の趣旨・背景

食中毒、家畜感染症、食品偽装等の「食の安全」に関わる諸問題は、農場から食卓までに至る様々な負の要因が複雑に絡みあって生じるため、農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難

世界人口増加に伴う食料確保、国境を越えて移動する食品等の安全確保、感染症の制圧、エネルギー・環境への配慮等、農学系人材が担う課題は、世界各国が協調して取り組むべき地球規模課題

EPA、FTA等による国際市場の拡大、食と農のグローバル化を背景に、国際展開を図る食品関連企業等の国際安全衛生基準の遵守、行政の検疫体制強化等が求められ、食の安全安心対策を行使できる人材育成が急務

これらの農学分野が直面する課題解決に資する人材育成のため、**獣医・農畜産融合の教育研究体制の構築が急務**

①全学的な機能強化

機能強化



獣医学分野全米1位のコーネル大学との教育研究交流推進

帯広畜産大学大学院畜産学研究科

獣医学専攻

畜産科学専攻

- ・分野横断型選択科目群の設置
- ・畜産衛生学位プログラム
- ・異分野複数教員による研究指導
- ・米国先端大学研修プログラム等

農学分野世界4位のウィスコンシン大学との教育研究交流推進



国際水準の獣医学教育環境の活用

国際安全基準適応の実習施設群の活用



世界最高水準の安全衛生基準認証 FSSC22000取得 (日本の大学初)

獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育研究体制により、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進

平成27年10月竣工の産業動物臨床棟

②獣医学・農畜産学融合教育の強化

◆ 研究科共通必修科目による獣医・農畜産融合の基盤形成

・「国際農畜産衛生科学特論」「生物資源環境科学特論」において、専門性と学際性の育成を目指し、獣医・農畜産融合の視点から「農場から食卓まで」の高度な実学・学際的知識並びに思考力を涵養

◆ 研究科共通の畜産衛生学位プログラム

・実務家教員を主体とした、畜産物を始めとする食品の安全確保・品質保証及び製品開発に関する即戦力人材の養成や社会人のリカレント教育を重視
・実務家教員を主体としつつ、全教員が各自の専門分野に応じた講義に参画することにより農畜産学・獣医学融合教育を実施

◆ 修士4専攻→畜産科学専攻の一元化

・専攻を一元化し、他分野科目を選択科目として設定
・異分野複数教員による研究指導が可能な体制を構築

③全学的な進学支援・教育の質の向上

◆ 進学支援制度の充実

・早期履修制度の導入や大学基金を活用した奨学金制度の拡充による進学支援

◆ 既存組織・教育内容の見直し

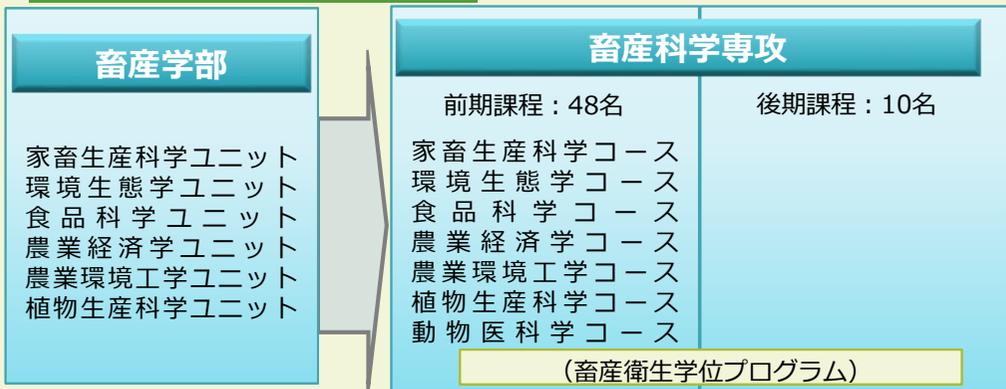
・H29年度より教員組織を再編し、獣医学・農畜産学融合教育を見据えた、一層柔軟な教育・研究体制を構築
・教育3ポリシー及びアセスメントポリシーの整備により、学生の学修到達度の評価を明確化

◆ 海外トップクラス大学との人材交流

・上記トップクラス大学等からの研究者招聘、国際安全基準適応の環境整備等により、国際通用力を持つ獣医・農畜産分野の教育機能を強化
・国際学会での報告、海外留学等を通じ、国内外の企業や教育現場のリーダーとして組織を牽引し、地球規模課題解決に貢献する人材を養成

畜産科学専攻（入学定員：博士前期48名、博士後期10名、専任教員：博士前期63名、博士後期60名）の特色

学部と大学院の接続性の向上



・学部の専門教育プログラムであるユニットに対応したコースを配置し、学部と大学院の接続性を向上し、専門性の高い教育を担保
 ・その上で、一専攻化により、分野が異なる学生と共に議論・課題解決に取り組む演習を通じ、新たな着眼点やコミュニケーション能力を涵養し、専門性に加え、隣接他分野の知識を有する視野の広い人材を養成

農場から食卓までに至る一連の教育研究環境を備え、獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を見据えた取組により、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ人材育成を推進

「総合力」
 生命・食料・環境に関する高度な知識と技術を活用し、農畜産学及び獣医学の専門分野で優れた能力を国内外で発揮

「応用力」
 実践的な特別教育プログラムによる社会ニーズに即した課題解決力の修得

「基礎力」
 分野横断型選択科目による専門性に加え、他分野の幅広い知識・技術の修得

養成する人材像

（前期課程）

農場から食卓までの「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成

（後期課程）

食と農のグローバル化を背景にした専門的知識及び創造性と優れた研究開発能力・教育能力を備えた豊かな人間力を持つ教育者・研究者を養成

「Farm to Table」

〈農作物・加工食品の安全衛生管理施設〉 〈動物・食品検体の検査施設〉



実践力

国際通用力

6次産業化、産業振興, etc.

HACCP構築、人獣共通感染症, etc

教育の特色

◆ 実践重視の教育

- ・主体的な学修・研究を促進するための演習科目の充実
- ・「実学」の実践のため、豊富な実務経験と高度な専門性を備えた実務家教員の活用
- ・世界水準の安全衛生基準を満たした学内施設を活用した実学教育
- ・第3期中期目標「産業界等社会の要請に即した人材育成機能を強化するため、大学院畜産学研究科において企業の実務家教員等によるオーダーメイド型実務教育を推進し、同研究科所属学生が企業等との共同研究に基づく研究テーマを選択する比率を平成30年度までに全体の40%にする」

◆ 動物医科学コースの新設

- ・獣医師養成以外の学士課程を卒業し、獣医学分野の研究意欲がある学生を対象に動物医科学コースを新設
- ・酪農・畜産業の振興、人間と動物の共存の高まりを踏まえ、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を身につけた高度専門職業人を養成

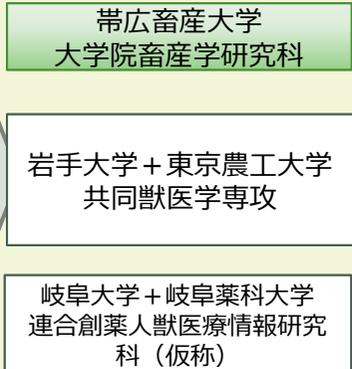
獣医学専攻（入学定員：5名、専任教員：42名）の特色

独自専攻の設置



発展的解消
 ミッションの再定義に代表される、各大学の強み・特色を生かした教育組織への転換

解消後の協力体制
 副指導教員の就任，学位論文審査委員の就任，特別講義・特別演習・ジョイントシンポジウムの開催等の教育連携を推進



農場から食卓までに至る一連の教育研究環境を備え、**獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を見据えた取組により、獣医学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ人材育成を推進**

「総合力」
 生命・食料・環境に関する高度な知識と技術を活用し、農畜産学及び獣医学の専門分野で優れた能力を国内外で発揮

「応用力：大学院教育」
 獣医学と農畜産学を融合した柔軟な発想で、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮する能力の修得

「基礎力：学部教育」
 北海道大学との共同教育課程における国際通用性のある獣医学教育

養成する人材像

獣医科学と農畜産科学を融合した柔軟な発想で、農畜産業のグローバル化に伴う多様な社会ニーズに対応できる実践力とリーダーシップを発揮する能力を身につけ、食の安全や動物とヒトの健康の向上に貢献できる指導的な教育者・研究者を養成



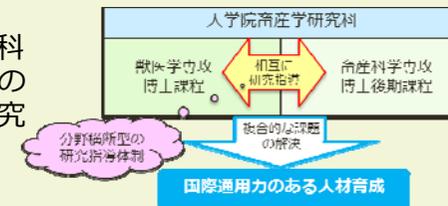
教育の特色

◆ 先端的研究の特別講義

・協定大学であるウィスコンシン州立大学、コーネル大学等から研究者を招聘し、獣医学分野、農畜産学分野及びその学際分野に関する講義を通じて、獣医・農畜産融合の視点から最新の知識と技術を駆使した先端的研究を担う力を修得

◆ 研究指導体制の強化

・分野横断型の課題に対応するため、畜産科学専攻博士後期課程と獣医学専攻博士課程の教員が相互に参画できるフレキシブルな研究指導体制を構築



◆ 実践重視の教育

・動物医療センター、動物・食品検査診断センター、全国共同利用施設である原虫病研究センターにおいて特別演習プログラムを実施
 ・上記施設における臨床及び検査業務とそれに関わる最先端の研究や現場の課題を解決するための研究環境を利用して、各分野についての知識及び技術に関する講義・実習からなる実学教育を実施